

会報

東京都退職校長会 足立支部

発行所 121-0815 東京都足立区島根2-3-10

足立支部長 伊藤 誠一 03-3883-5149

令和4年度

東京都退職校長会 足立支部

役員理事氏名 分担

顧問 萱原 昌二
 支部長 伊藤 誠一
 副支部長 浦山 太市 (庶務担当)
 草野 一紀
 参与 黒田 貞夫
 都理事 矢野 澄夫

理事会計 黒澤 紀夫・石川 明
 会計監査 川和 誠一
 大兼 茂子
 理事会報 浦山 太市
 名簿担当 川田 辰男



地区担当理事

川田 辰男 (千住北・千住南)
 矢野 澄夫 (足立・梅田・西綾瀬)
 草野 一紀 (綾瀬東部)
 伊藤 誠一 (島根・梅島・竹の塚)
 中岡 啓子 (西新井・栗原)
 浦山 太市 (東北)
 甲斐 正和 (花畑)
 矢萩 恵一 (鹿浜)
 齋藤 光一 (新田・江北)
 石川 明 (伊興北)
 大串すみゑ (伊興西)



※下線:重複者
6月総会(予定)まで

令和5年度

長寿会員の皆様、おめでとうございます

米寿

後藤 裕一郎 様 佐々木 史都 様

喜寿

矢野 澄夫 様 渡辺 敏 様
 角田 勝彦 様 春原 勝次 様
 小泉 憲也 様 千葉 俊治 様

令和5年度も会員の皆様共々力を合わせて
会員増強に努めてまいりたいと存じます。
よろしくお願ひします。

支部長 伊藤 誠一

東京都退職校長会創立70周年

5年度、東京都退職校長会は創立70周年に
当たり、記念式典並びに記念講演を行います。
今回は祝賀会を行わず、記念講演として浄瑠璃
「一中節の演奏と解説」が行われます。

日時は5月16日(火)、時間は午後1時から、
調布市立文化会館・くすのきホールにて実施
いたします。その準備に、第一委員会・記念
式典委員会、第二委員会・記念誌作成委員会、
第三委員会・記念特別事業委員会の三つの実行
委員会が準備を進めています。

準備のため、委員会は会場となる「くすのき
ホール」を下見したり、記念誌の原稿の手配を

したりしています。また既報のように70周年並びに将来の活動のための資金として会員の皆様に協賛金も仰いだりして、皆様には多大なご負担をおかけしながら実行委員会では諸準備を進めております。

式典参加者は支部の会員数に応じて割り当てられました。今のところ、参加者は支部長の伊藤と功労会員の中岡啓子様と本部関係で草野一紀様、矢野澄夫様4名ですが、まだ余裕がありますので参加ご希望の方は、支部長まで申し出てください。

70周年式典は会員一人一人の皆様のお気持ちを一つにしてお祝いするとともにこの伝統を未来につなげる式典となることを願って開催いたします。

<足立区の情報>

足立区の最近の教育情報です。

① 区は給付型奨学金奨学生を募集しています
(返さなくていい奨学資金です)

第一期

令和5年1月4日～2月28日 20名

第二期

令和5年3月1日～4月14日 20名

給付金の上限

私立医科・歯科系の大学入学金 162万円

授業料及び施設整備費 573万円

そのほかの大学は、 入学金38万円

授業料等198万円

高校3年間の成績が5段階評価で4以上
世帯4人の場合の年収が800万円以下などの条件があります。

応募した後は、書類選考、面接、最終的に足立区育英資金審議会の審査を経て決定する、となっています。

—皆さんのご家族友人知人等でこのような進学がらみの相談事があるようでしたら、教育委員会学務課助成係にお尋ねください。

② 給食費のこと

足立区は令和5年度からの中学校の給食費を無償化することになりました。

「中学校に入学すると標準服や部活や受験などお金がかかるので、まずは中学生の給食費を無償化する」(近藤区長)

足立区の中学生は約1万3千人。予算に約8億円が必要になるとのことです。小学生の給食費については別途制度設計が必要とのことで時期は明確化されていません。



<会員増強の方法>

今年度の3月に退職なさる校長先生方へ加入案内をします。その方法は地道な努力以外にはないと思いますが、会員の皆様のご協力をいただきながら加入案内を進めていきましょう。また、今までに退職なさった校長先生方で未加入の方に繰り返し働きかけていきましょう。知っている方には積極的に働きかけましょう。

令和5年3月には、5年前に退職なさった校長先生方が再任用等が終了します。平成30年3月に退職なさった校長先生方に再度ご案内を差し上げてみたいと思います。

この会報をご覧になっただけで現役の校長先生(副校長先生)方も「退職校長会」へのご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。



12/22忘年会ご案内はかき

コメント集

(2021/R3年版「年齢順名簿」順)

忘年会ご案内葉書の返信欄に書いていただいたコメント集です。

氏名 ～忘年会出席者

(氏名) ～逝去・退会者

01 (秋山 健三) 退会 R4. 8

02 秋元 篤司

欠席します

03 網野 榮一 04 小池久代

05 (山之内登) 欠席します。

葉書投函後 ご逝去 R5. 1

06 (武内 厚)

07 林 正男

食事を忘れない。



08 岸本 眞

足腰以外は元気ですが昨年から眼科通
いです。皆様の健康をお祈り申し上げます。

09 大塚 久幸

10 (小室 詢) ご逝去 R4. 8

11 後藤 榮

体力の限界を感じながら次の2点ではがんば
っております。①短歌を毎日書いています。②で
きる限り動いています。

12 (中村 道正) ご逝去 R3. 11

13 有馬 正英

14 (加島 直吉) ご逝去 R3. 8

15 涌井 澄夫 16 岸川 正登

17 篠原 仁 18 小山 矩子

19 高橋 昭一

足が言うことをきかなくなり、山形も音楽会も芝
居も遠くなりました。もっぱらラジオと親しんでいま
す。

20 (佐々木一磨) 退会

21 西田 達

去年、胃の手術をして以来、外出不可の状態。

22 堀川 和夫 23 小倉富美雄

24 (齊藤 傳造) 退会 R4. 3.

25 (喜多山参男) ご逝去 R4. 3

26 坂本 秀雄 欠席します。

27 川島 康子

返信が遅れました。今年は米寿を迎え、叙勲も
受けて、とても良い年でした。健康第一で頑張り
ます。

28 (矢沢 幸一郎) ご逝去 R4. 4

29 後藤 裕一郎

30 佐々木史都

足が弱くなり、歩行器を使って歩く訓練をしてい

ます。足が回復したら出席したいと思っています。
今回は欠席いたします。

31 黒田 貞夫

多少運動不足ながら、歴史書を図書館で借りて
生家の歴史をまとめるなどし、出歩いています。
越谷市のハイキングコースで花の写真を集めて
います。

32 四十九院公洋

33 北村 透

遅れて申し訳ありません。
体調がすぐれません。

34 萱原 昌二 欠席します。

35 今野 君江

日々感じていることです。戦中・戦後の大変な
時代を経験し、今こそこの国の平和のありがたさ
を思う。世界中が平和であることを願う昨今です。

36 志村 宗亮

健康に関する放送番組を録画して勉強するこ
と。主治医の指示に従い生活すること！

37 中岡 啓子 出席します。

38 佐南谷雅枝

独居を支えているのは、地域の方々との交流
と、毎日小一時間の散歩です。居になって3年目
になります。娘たちとはラインで会話してます。一
日5000歩の実践を何とか続けています。

39 長谷川 勝

一人生活にもようやくなれ、少しずつ生活が前
向きに!!忘れが多くなり困っています。

40 丸山 進

41 高木 昭彦 欠席します。

42 秦 太一郎

関わった人達が鬼籍に入られるようになり、終活
という言葉が気になる今日この頃です。

43 福田 省三

コロナが早く終息して欲しい。

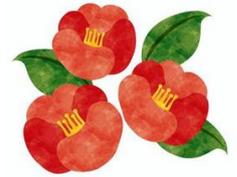
44 小泉 信義

「出来ないことをなげくより今出来ることをしっか
りやる」ように心がけています。

45 中川 一

声のかかる会合には、都合がつけば積極的に
参加・出席するようにしている。

3



坂本様
川島様
叙勲
おめでとう
ございます

46 黒澤 紀夫

雨が降らなければほとんど外で動いています。いまのところ体だけは元気です

47 清水 豊

いつもご案内有難うございます。年齢と共に日々外出が困難にいます。久々の忘年会!!ご盛會を祈念しています。

48 高田 昌明

未だ総合型地域スポーツクラブ(習志野イースタンスポーツクラブ)理事から抜け出せず卓球、硬式テニス、パークゴルフ等を楽しんでいます。毎月一回の「やろう会」ゴルフや地元町会のゴルフを楽しんでいます。光陰矢の如しです。

49 吉川 眞澄

50 安藤 善文 欠席します。



51 森下 律子

健康のために今までの運動を続けていますが、思うように体が動きません。身体年齢は正直です。

52 木村 久代

いつも御連絡いただきありがとうございます。健康で何とかやっております。毎日のラジオ体操(長寿支援シールあり)その後、遊水池の五千歩ウォーキングを細々と続けております。

53 永野 定子

54 伊藤 誠一

11月は鷲神社の行事のお手伝いで、けっこう忙しかったです。

55 川和 誠一

元気です。ゴルフも止め体を動かすことが少なくなりました。カメラを持ってブラブラしています。11月には校長時代の任地「新島」に行ってきました。

56 蛭田 俊男

東京都退職校長会の企画運営にたずさわって下さっておられる方々に感謝いたしております。ご案内をいただきながらなかなか参加出席できず申し訳ございません。会報通信などでのつながりですが、読むのも楽しみの一つです。

57 大兼 茂子

頑張っている事⇒①11/12東日本マスターズ陸上大会に円盤投・やり投げエントリー②12/18

(日)3年ぶりに足立フレンドリーマラソン大会実施の予定。第11回大会になります。③R・BODYというジムで、コンディショナルトレーニングに行き出し筋肉トレーニング始めた。

58 筧 進

日々是好日ならず、日々是煩惱です。コロナとウクライナのことで…

宜しく願います。

59 矢野 澄夫

60 渡辺 敏

61 春原 勝次

夏から冬へ。秋の気配を感じないまま冬が来たようです。寒くなると外に出るのも億劫になりますが、健康のため毎日歩くようにしています。

62 角田 勝彦

63 小泉 憲也

64 千葉 俊治

週2回の卓球を楽しんでいます。視力、体の痛み、衰えとつきあいながらです。会は仕事のため欠席します。

65 坂本 辰男

66 大串すみゑ

辺りの樹々が季節外れの花を咲かせているような四季の変化ですが、今は、紅葉を愛でながら、一年を振り返り始めているところです。

67 菅谷 春雄

68 澁谷 勇一

69 甲斐 正和

70 (後藤 とも) 退会

71 (渡邊 幸雄) 退会

72 泉 宜宏



いつもご案内有難うございます。予測不能な時代をどうやって生きていくか、日々、考えております。健康が一番ですね。

73 浦山 太市

還暦15歳になる年。退職後から始めた勤務地(足立・葛飾・八丈)への恩返しの諸活動もそろそろ…かな、と思う。が、まだまだ返し切れていない。いくつかやっているボランティアや趣味の活動での諸先輩の元気に触れると「老齡」されどまだまだ「若造」と思う昨今。「もう少しかな…」心身共に健康であることに感謝の日々です。

74 矢萩 恵一

ウォーキングしてますが、腰痛がひどく、困っ

ています。します。

75 **草野 一紀**

70周年の記念事業で会員の皆様から協賛金を募る取り組みの責任者に指名され、多忙な毎日となっていました。一人でも多くの会員の方にご協力をいただき、充実した70周年になることを祈っています。

76 **笹 サヨ子**

77 **齊藤 光一**

78 **大澤 重市**

79 **櫻井美代子**

日常に流されて、感謝の気持ちを忘れがちです。何事も当たり前と思わず、おかげ様の気持ちで笑顔で過ごしたいです。

80 **佐々木善光**

81 **高橋 守穂**

三月末で足立区教委(教科指導専門員)を退職。健康のための散歩、野草観察をして過ごしています。四季の俳句を書の短冊に作っています。盛会を祈念しています。

82 **金指 真澄**

83 **関 順子**

お世話になります。12月22日は仕事の為欠席させていただきます。

84 **石川 明**

今年の忘年会にはなんとでも参加出席致します。よろしく願います。ボウリングは休みがちです。(忘年会当日所用のため欠席)

85 **和田 常明**

日々体重計に乗り、体重と体脂肪を気にかけています。炎天下での家庭菜園作業で2~3kg体重が減ります。よく熱中症にもならなかったものだと思いついています。

86 (田邊 秀夫) 退会

87 **川田 辰男**

元気に過ごしております。茨城県銚田市で過ごすことが多くなっています。

88 **荒井 公毅**

89 **池田 敦彦** 欠席します。

90 **木内 克明** 91 **田代 敏博**

92 **小林 富男**

毎日、ジムに通っています。

93 **福迫 潮**



94 **松澤 信男**

健康のため退職後続けていたソフトボール(ポジション・ピッチャー)もコロナの影響で練習場所が長期間使用できず運動不足で筋肉も大分落ちてしまいました。最近やっと再開しぼちぼち練習に参加しているところです。

95 **石鍋 浩**

両日とも大学の授業があります。残念ながら参加できませんが、皆様によりよくお伝えください。私は元気にやっております。

96 **小幡 育代**

いつもご案内いただきありがとうございます。少しづつ、いろいろな催しを実施できるようになりうれしく思います。参加できず申し訳ありません。皆様のご健康を祈念いたしております。

97 **山賀出穂**

すみません。都合がつかず、欠席します。時間があるときは、弓をひいています。自分の課題を克服しようと練習に励んでいます。

98 **武智勇喜**

99 **篠崎友誉**

※篠崎様ご入会有難うございます。

返信葉書が未着の方もおりましたが、お変わりありませんでしょうか。コロナそして今はインフルエンザも心配、花粉症も…お互い体調等健康には十分お気をつけ生きましょう。



令和4年度
歴史散歩=田端文士村を歩く
<11月10日(木)>

今回のサブタイトルは、「歴史を今に伝える標示板を探しながら「田端文士村」を歩こう」です。

「標示板…?」

まずは、集合場所の田端駅北口に集合する。学生のころ行った田端の面影はなかった。そこから、同じく近代的な建物「田端文士村記念館」に行く。これから散歩する内容が概観でき興味ある記念館だが、最後にまた寄るということでほどなく駅の南口へと向かう。



(北口)



不動坂



(南口) ↓

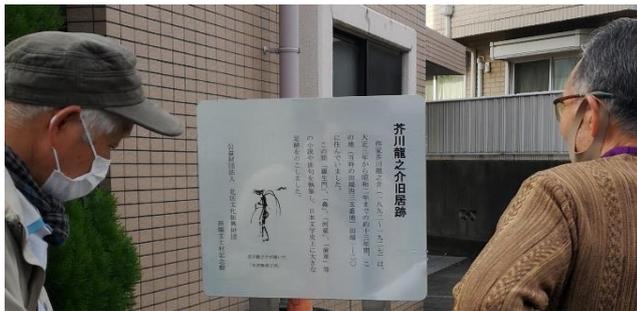


北口は大きな代ビルの1階。この南口は、筆者が学生時代に来た時と変わらないそのままの風景であった。ここを出ると左下は京浜東北線、山手線。右手の不動坂を上り高台へ。いよいよ文士芸術村の散策。

田端文士芸術家村

明治20年(1887)、東京美術学校(現東京芸術大学の前身)が上野に設立され美校へ通う学生





が下宿などして多く住むようになった。このころより、田端へ文士芸術家たちが集まり出すことになる。

ここからは、前掲の地図イラストなどを見ながら読んでいくとどこのあたりのことがわかりやすいと思います。

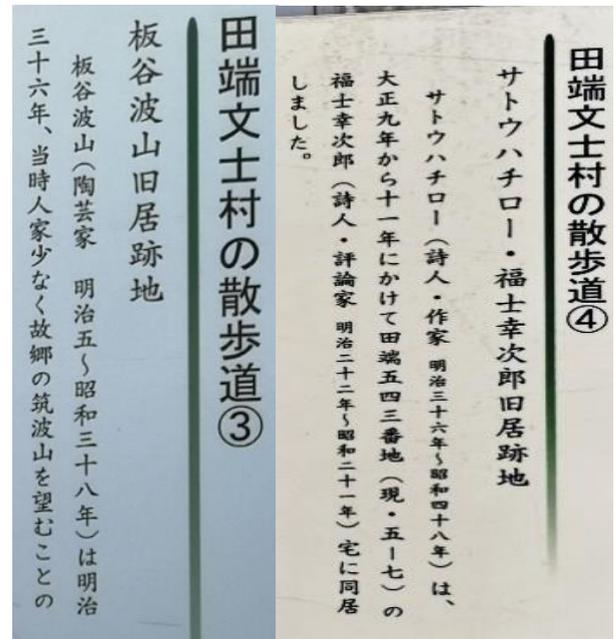
まずは、芥川龍之介旧居跡へ。ここに北区は「記念館」を建設する予定、ということでした。



中央区明石町で明治 25 年に生まれた芥川は、大正 3 年(1913)から田端に住む。東京帝国大学入学。漱石門下として「鼻」をはじめ多く

の文学作品を発表。一時神奈川にも住むが、同 8 年、田端に戻る。しかし…昭和 2 年に自死、享年 36 歳。

3 人の子供は比呂志(当時 7 歳)、多加志、也寸志。多加志は戦死したが、あとの 2 人の活躍はご存知の通り。「記念館」完成が楽しみです。



散歩道にはこのような標示板が、住宅街や道

路際に立っていて「旧居跡地」だったことはわかるが、面影は少ない。しかし伊藤先生の資料を見ながら散歩していると、当時の田端が「文士芸術村」と呼ぶにふさわしい所であるということが納得できた。

龍之介が結婚披露宴をしたという天然自笑軒もある。金沢で生まれ大正 5 年に田端に来た室生犀星、サトウハチローの旧居跡の標示板も見られた。

茨城県下館出身の陶芸家・板谷波山は龍之介に先立ち、明治 36 年(1903)からこの田端の地に移り住んでいる。その後、この波山を慕って彫刻家・吉田三郎、鑄金家・香取秀真も来た。昭和 23 年(1953)、波山は陶芸家として初めての文化勲章を受けた。

また大龍寺には、この板谷波山、正岡子規の墓がある。

明治 33 年(1900)年に来た洋画家の小杉放庵の旧居後は今の田端区民文化センターになっている。

ここから竹下夢二、岡倉天心旧居跡を眺めながら田端 3 丁目にある田端保育園に向かう坂を上る。この坂が「ポプラ坂」である。放庵が西洋修業で見た画家たちの優雅なテニス姿を見て、この田端の地に「ポプラ倶楽部」をつくったという。保育園は放庵が作り活動したテニスコートの跡地である。小豆島出身の仲間が郷里からポプラの苗を取り寄せて植えたという。

標示板を見ながら、また資料をみながら「田端」のあちこちを歩いていると、「えっ 此处…さっき通ったような…」となる。

高台の狭いエリアなのに、ここが…あそこが…と迷ってしまいそうになる。そして、ここあそこ、一度は聞いたことがある有名な文士芸術家たちが住んでいたというのは本当に驚きでした。

最後は、再度出発地だった「田端文士村記念館」に行く。記念撮影後解散。時間ある方はゆっく

り参観。次の予定へと田端を後にしました。

今回は、イラストにある文士芸術家たちの極一部を訪ねての散歩でした。

行けなかった方のために詳しい地図等も入れました。どうぞ一度はお訪ねください。



伊藤先生が丹念に実踏し私たちが案内し標示板やその跡地を確認するにつれ、足の疲れも忘れ、「田端恐るべし」で、再度田端村を惚れ直し感慨深く説明に聞き入った散歩でした。感謝です。

お疲れさまでした。(浦山記)



室生犀星旧居跡地
室生犀星(詩人・小説家 明治二十二年(昭和三十七年)は、大正五年七月田端一六三(現・三四)番地転入をはじめとし、その後田端内を数回転居しました。なかでもここ田端五二三(現・五・五)番地は、居住期間が最も長く、特に気に入っていた場所のひとつです。





田端文士・芸術家村地図

地図は昭和8年当時のもので、旧番地が表示されています。
 なお、田端駅前通り(切通し)は、昭和10年の完成ですから、
 文士・芸術家村華やかな頃は、この道はありませんでした。
 ○番号は転居回数

※ちょっと見づらいですが、昭和8年当時の地図・旧番地も入っています。次頁と併せご参考に。

<芥川龍之介「東京田端」より>

時雨に濡れた木木の梢。時雨に光ってゐる家々の屋根。犬は炭俵を積んだ上に眠り、鶏は一籠の何羽もちつとしてゐる。

庭木に烏瓜の下つたのは、鋳物師香取秀眞の家。
 竹の葉の垣に垂れたのは、画家小杉未醒の家。
 門内に広い芝生のあるのは、長者鹿島龍蔵の家。
 むかるみの路を前にしたのは、俳人瀧井折柴の家。
 踏石に小笹をあしらつたのは、詩人室井犀星の家。
 椎の木や銀杏の中にあるのは、一夕暮れの燈籠に火のともるのは、茶屋天然自笑軒。

時雨の庭を塞いだ障子。時雨の寒さを避ける火鉢。私は紫檀の机の前に、一本八銭の葉巻を啣へながら、一 游亭の鶏の画を眺めてゐる。





<関連 年表>

- 1867 慶応 3 年、正岡子規松山に生る
- 1868 慶応 4 年 9 月 8 日・明治元年
- 1872 明治 5 年 学制発布
- 1872 明治 5 年 板谷波山(本名・嘉七)生る(下館市)
- 1881 明治 14 年 小杉放庵(放庵)生る(日光市)
- 1889 明治 22 年 大日本帝国憲法発布
東京美術学校上野に開校
- 1889 明治 22 年 室生犀星 金沢に生る
- 1892 明治 25 年 芥川龍之介中央区明石町に生る
- 1894 明治 27 年 日清戦争勃発
- 1896 明治 29 年 田端駅開場
- 1898 明治 31 年 日本美術院創設
- 1900 明治 33 年 小杉放庵田端に転入
- 1902 明治 35 年 正岡子規死没
- 1903 明治 36 年 板谷波山田端に転入～没年まで
- 1903 明治 36 年 サトウハチロー 生る
- 1904 明治 37 年 日露戦争勃発
- 1914 大正 3 年 芥川龍之介田端に転入～昭和2年7月24日
- 10 そのすぐあと7月28日 第一次世界大戦勃発

- 1916 大正 5 年 室生犀星田端に転入
- 1923 大正 12 年 関東大震災
- 1927 昭和 2 年7月24日 芥川龍之介死没(享年36歳 数え年)
- 1932 昭和 7 年 五・一五事件
- 1935 昭和 10 年 田端駅前通り(切通し)完成
芥川賞、直木賞創設
- 1936 昭和 11 年 二・二六事件
- 1937 昭和 12 年 7 月 7 日 日中両軍盧溝橋で衝突、
日中戦争(北支事変)
- 1940 昭和 15 年 日独伊三国軍事同盟
- 1941 昭和 16 年 太平洋戦争
- 1962 昭和 37 年 室生犀星死没
- 1963 昭和 38 年 波山死没
- 1964 昭和 39 年 小杉放庵死没
第18回東京オリンピック
- 1972 昭和 47 年 第11回札幌オリンピック
- 1973 昭和 48 年 サトウハチロー 死没
- 1998 平成 10 年 第18回長野オリンピック
- 2020 令和 2 年 第32回東京オリンピック
☆第16回東京パラリンピック(実際は1年延期)
- 2025 令和 7 年 デフリンピック第25回東京大会開催 11/15～26

お知らせ

(1) 令和5年度総会日程について

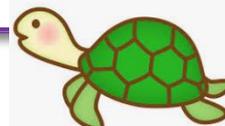
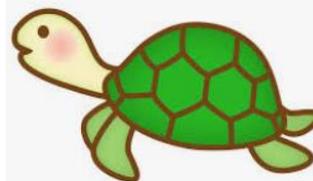
6月の予定です。日時・会場等詳細は役員会にて決定後、ご案内（往復はがき）させていただきます。

(2) 令和5年度歴史散歩について

秋の佳き日に…と、詳細テーマ等、次号にてご案内いたします。

(3) 新名簿について

令和3年2021年8月以来、改訂名簿は作成していませんが、訃報・退会会員、新会員等もあり改正訂正の必要もあり、支部会報夏号発行に合わせて作成したいと思います。



◎ 編集後記 ◎

足立支部の皆さま、今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

コロナ禍の収束が見え出したこの頃、様々な変化変容が現れてきていることは誰もが実感していることと思います。その実感も各人の日々の生活状況、立場により感じ方も様々なようです。

この2,3年で時折または孫や地域等で日常的に学校教育に関わっている方々は、タブレットを自在に操り、調べ物や宿題をやり、プログラミングの学習では楽しそうな動画作ったりしている様子見聞きしているのではないのでしょうか。足立区教育委員会の「あだち ICT 情報の広場」を見ると「なるほど…」とうなづけます。下記表のような状況からみても、ICTは学校教育を支える基盤的なツールとなることは間違いのないことで、コロナはそれをより早めたようです。

このような時代、多くの人が道徳教育の大切さを語っています。先日参加した東綾瀬小学校での全国小学校道徳教育研究会では、文部科学省の教科調査官がこれからの時代道徳教育に求められる内容として「①他者とともによりよく生きていくための感情交流②人工知能には想定できない人間そのものの理解」という観点が大切ではないか…と話されていました。いずれにしても、これからは特別の教科「道徳」の授業がしっかり意識をして実施実践されることが Society 5.0 社会には欠かせないと思いました。

高校の教科になった「情報」を購入し読む。技術を創る大切さと、情報・技術に振り回されない大切さを知りました。そして私に欠けていたことは創られた情報技術を縦横に使いこなすことでした。

(担当・浦山)

Society 5.0 時代は「インターネットや人工知能を活用した社会」。次の学習指導要領改訂 2030 年では中教審答申で示された令和の日本型学校教育「①全ての子供たちの可能性を引き出し②個別最適な学びと③協働的な学びの実現」を図り持続可能な社会の創り手の育成が求められる。

